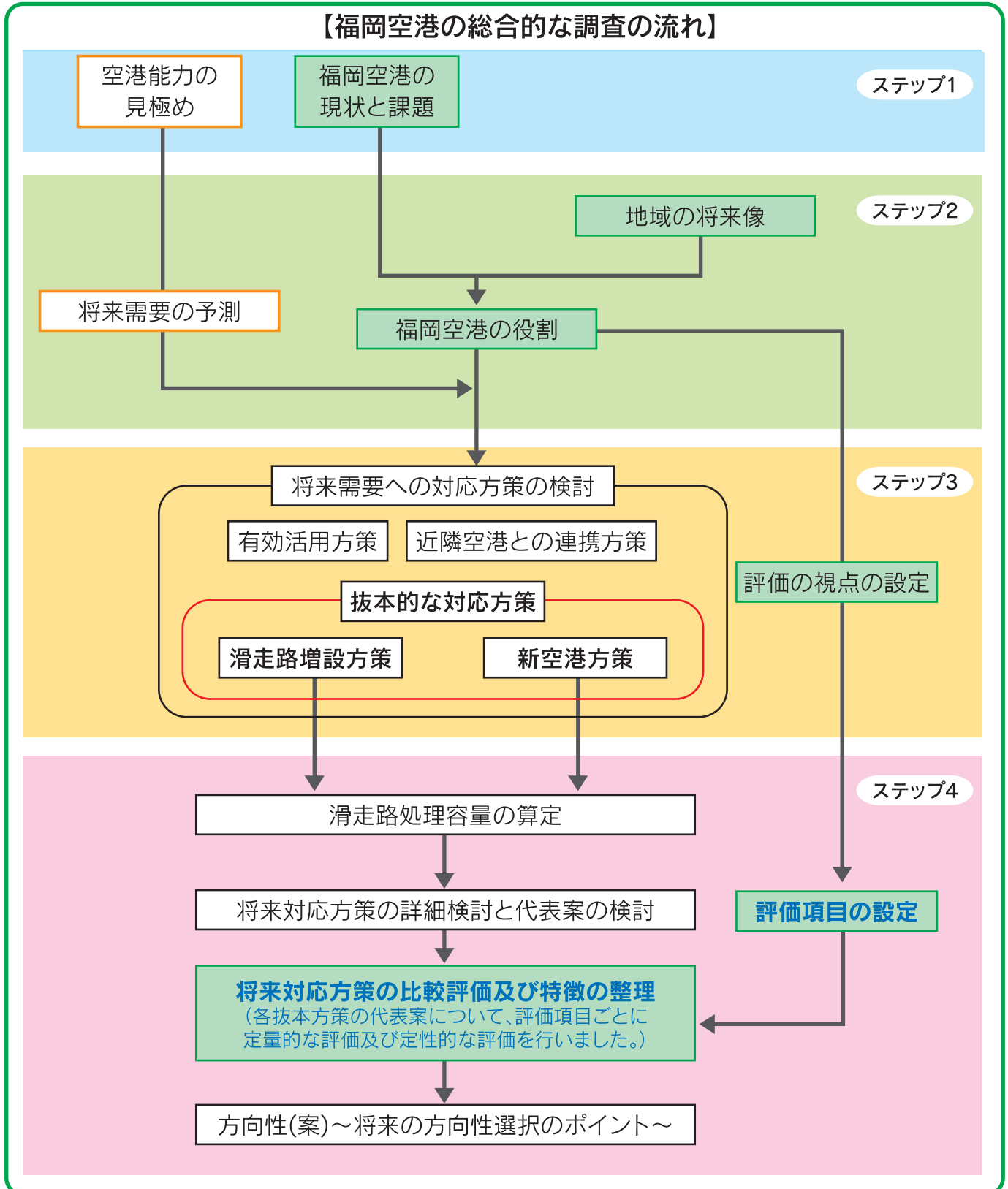


ここでは、「現空港における滑走路増設」「新空港」の将来対応方策について、比較評価を行います。
 まず将来対応方策を評価するための評価項目を設定し、評価項目ごとに定量的な評価及び定性的な評価を行います。



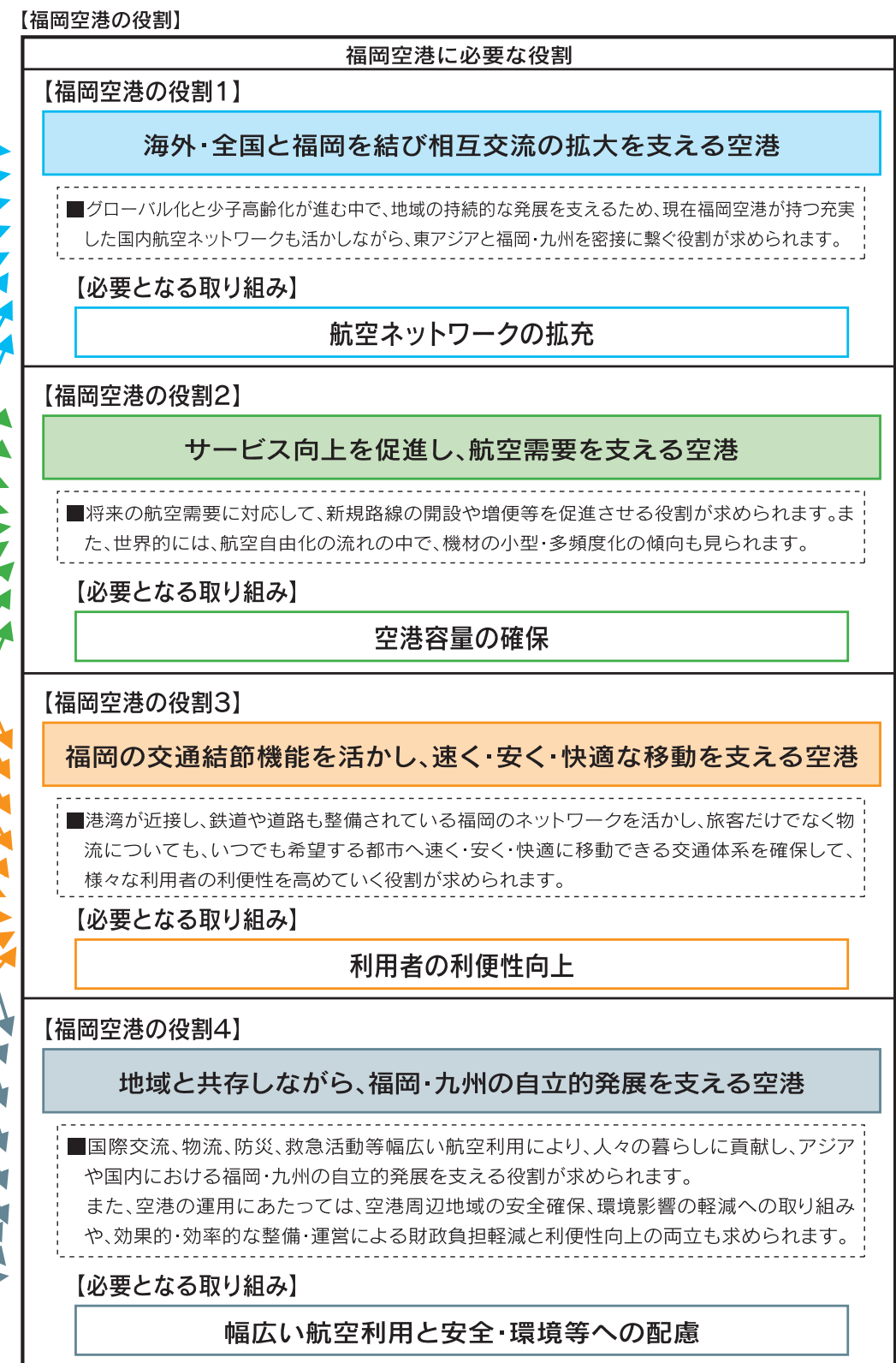
1. 評価項目の設定

1) これまでの検討状況

- 地域の将来像
「地域の将来像」について、既にある様々な将来ビジョンや着眼すべき論点を抽出し、その論点を中心として、概ね2030年頃までを対象とする地域(福岡・九州)の目指すべき将来像として描きました。
 - 福岡空港の現況と課題
「福岡空港の現況と課題」について、利用者・地域・航空ネットワーク・空港施設の視点から、考察を行いました。
- これまで整理した「地域の将来像実現」及び「福岡空港の課題解決」に向けて「福岡空港に求められるもの」をまとめ、これから導かれる将来の福岡空港に必要な役割を「福岡空港の役割」として次ページに整理しました。

論点	将来像	福岡空港に求められるもの
①グローバル化	成長する東アジアを中心とした国際社会と共生する地域	○東アジアを中心とした産業集積地域と行き交う旅客・貨物需要への対応 ○中国主要都市等の訪日観光需要の増大への対応 ○福岡から乗り継ぎ、周遊しやすい航空・陸上・海上交通のネットワーク ○旅客や貨物の利用者が早く・快適に利用できるターミナル施設
②少子高齢化	国内外から多彩な人材を引きつける多様な機会に充ちた地域	○九州をけん引する福岡の国内外交流拠点機能の強化 ○技術交流、文化交流、学術交流の増大による旅客需要への対応 ○東アジアを中心とした外国からの人材受入による旅客需要への対応 ○中国主要都市等の訪日観光需要の増大への対応(再掲)
③地方分権	地域性を活かして競争力のある自立した地域	○高次都市機能が集積する福岡の競争力を支える航空サービスの充実 ○分権の拠点となる地方中枢・中核都市とのネットワークの強化
④価値観の多様化	様々な人々が交流し、ゆとりと豊かさを実感できる地域	○海外・国内旅行の多様化への対応 ○季節便や臨時便、出発到着時刻など様々な利用者ニーズへの対応 ○ユニバーサルデザインなど全ての人が利用し易いターミナル施設
⑤IT化	ITを活かして優れた知識を創造し、国内外に情報発信する地域	○IT活用により促進されるグローバルな旅客交流の増加への対応 ○ITを活用し、他の輸送機関とも連携した迅速・確実な物流への対応 ○情報関連産業に関する技術交流、人材交流の増大による旅客需要への対応
⑥社会資本形成	戦略的な社会資本形成によりグローバルな競争力をもつ地域	○効率的な経営による運営コストの低減 ○直接的、広域的効果を十分見極めた適切な設備投資 ○民間活力導入等による、公的な設備投資額の抑制
⑦環境重視	都市の発展と環境への配慮が好循環した持続可能な地域	○騒音等、空港が周辺地域に与える環境影響の軽減 ○エネルギーや水等、省資源、リサイクル型空港への取組み ○環境関連産業に関する技術交流、人材交流の増大による旅客需要への対応

- 福岡空港の役割
「地域の将来像の実現及び福岡空港の課題解決に向けて整理した「福岡空港に求められるもの」から導かれる将来の福岡空港に必要な役割を「福岡空港の役割」として下記のとおり整理しました。



将来対応方策の比較評価

視点	主な現状と課題	福岡空港に求められるもの
①利用者の視点	・利用者は旅行時間、目的地での滞在時間、運航頻度を重視している ・利用時間帯は朝・夕にピークがある ・アクセスを中心に満足度は高い	○直行路線の維持・拡充や運航の多頻度化への取り組み ○空港アクセス、搭乗手続き、航空機の乗り継ぎの時間短縮や快適性の向上 ○航空運賃やアクセス料金など、費用の低減
②地域の視点	・福岡・九州での幅広い経済波及効果 ・市民や周辺離島の航空利用への貢献 ・防災・報道等における航空活動支援 ・日本一良好な都心と空港のアクセス ・都心部の建築物高さ制限 ・万一の事故の危険性 ・航空機による騒音問題	○福岡都市圏を出発・目的地とする国内外の旅客や貨物需要への対応 ○市民の航空利用や物流など、福岡の生活・経済・文化活動に貢献する交通基盤としての機能 ○周辺離島と福岡を結ぶ生活路線やこれらの地域と他地域を結ぶ乗り継ぎ拠点機能 ○消防、警察、海上保安庁、テレビ局等、周辺地域の防災・報道等における航空活動支援 ○運航の安全をより高める努力と万一事故が起こった場合の危機管理 ○騒音や大気汚染等、空港周辺の生活環境への影響低減のための対策の実施
③航空ネットワークの視点	○国内航空ネットワーク ・北部九州地域と三大都市圏との流動を支える ・九州・山口地域と主要都市との流動を支える ・離島と他地域との流動を支える ・全国第4位の国内旅客、全国第3位の国内貨物取扱量 ・国内貨物輸送における航空輸送の大幅な伸び ○国際航空ネットワーク ・全国第4位の国際線旅客、貨物の取扱量 ・アジア路線が多く占める国際定期路線 ・九州・山口地域と海外との流動を支える ・高度化する物流を支える航空輸送 ○航空ネットワーク形成 ・基礎需要の高さと九州各地から福岡都市圏への良好なアクセス利便性を背景にした需要増加と航空ネットワーク形成	○海外・国内の拠点空港との競争を見据え、相互交流拡大が見込まれる東アジアを中心とした国際航空需要への対応 ○成長するアジアの活力を取り込み、福岡・九州の観光産業の活性化、自動車や半導体産業の集積という地域特性を活かした成長を目指すため、現在、福岡空港に就航していない各国・各地域への国際航空ネットワークの強化 ○国内幹線である三大都市圏との安定した航空サービスの確保、全国各都市との直行路線の確保及び離島等の生活路線の維持 ○羽田空港の容量拡大、静岡空港開港、百里飛行場の民間共用化など、国内の空港整備を踏まえた新たな路線開設及び便数増加による国内航空ネットワークの拡充 ○高度化する物流システムに対応し、今後増大が見込まれる航空貨物需要への対応
④空港施設の視点	・ピーク時間帯での旅客利用や航空機運航への制約が生じはじめている ・曜日・季節により航空需要は変動する ・空港利用は7時～22時までに制限 ・路線需要や目的による機材の使い分けと小型・多頻度化の進展 ・航空会社間競争による運賃低廉化とそれに伴う需要拡大	○国内外の情勢や九州の空港や交通基盤の整備を考慮した、中・長期的な航空需要を満たし、繁忙期やピーク時間帯での旅客ニーズに対応できる空港容量 ○路線の新規開設や増便を可能にし、小型・多頻度化や航空会社間競争等によるサービス向上を活性化させるためのゆとりのある空港容量

将来対応方策の比較評価

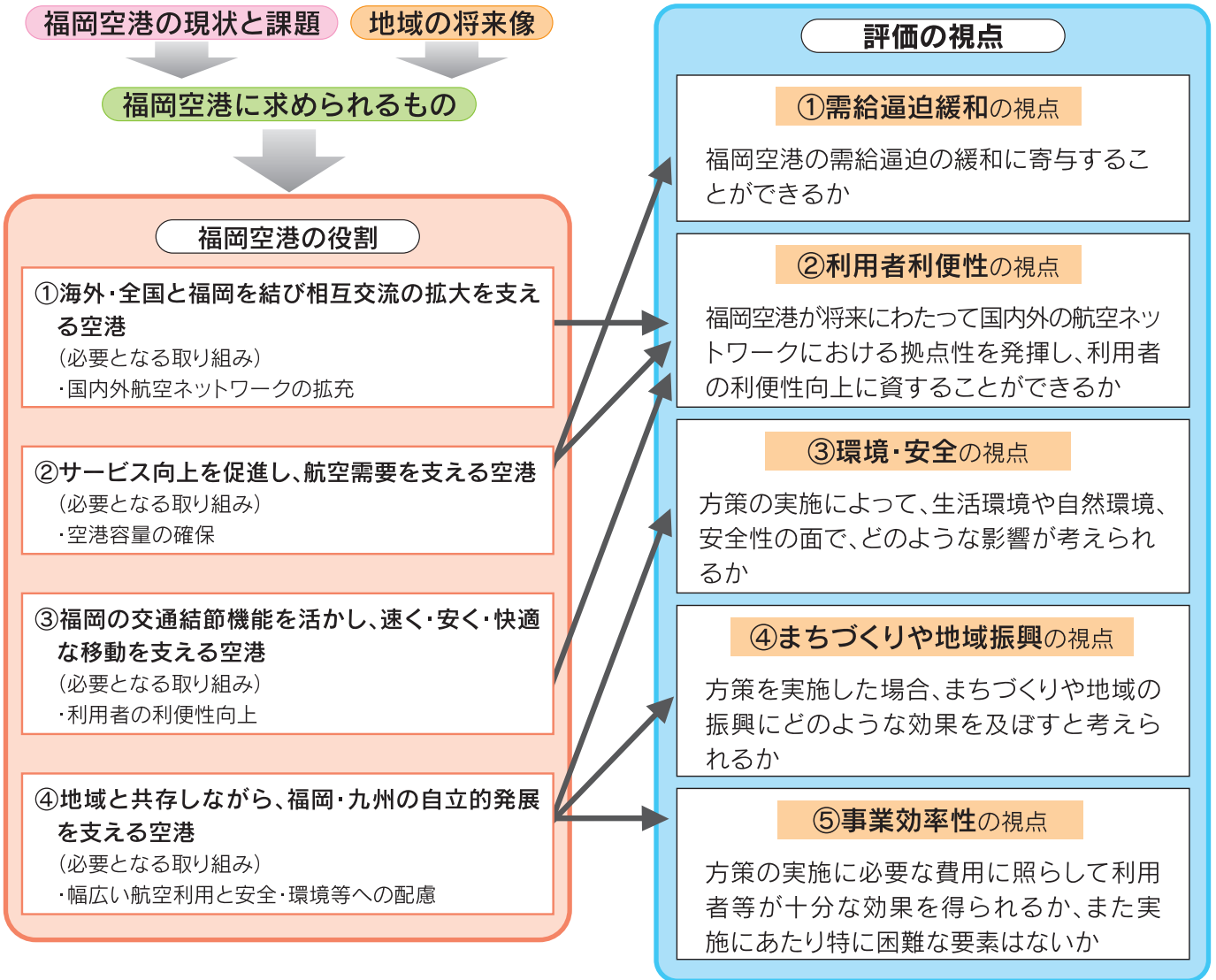
IV 将来対応方策の比較評価

1. 評価項目の設定

1) これまでの検討状況

○将来対応方策の評価の視点

将来対応方策を比較評価するにあたっての基本となる視点については、福岡空港の役割と必要となる取り組みから、平成14年12月6日および平成19年6月21日の交通政策審議会航空分科会答申に示された趣旨を踏まえ、以下の5つの視点を設定しました。



交通政策審議会航空分科会答申(H19.6.21)

福岡空港及び那覇空港は、2010年代には空港能力の限界への到達が見込まれることから、段階的に進められている総合的な調査の結果を踏まえ、抜本的な空港能力向上のための施設整備を含め、将来需要に適切に対応するための方策を講じる必要がある。

交通政策審議会航空分科会答申(H14.12.6)

将来的に需給が逼迫する等の事態が予想される福岡空港及び那覇空港については、将来にわたって国内外航空ネットワークにおける拠点性を発揮しうよう、各圏域における今後の航空需要の動向等を勘案しつつ、既存ストックの有効活用方策、近隣空港との連携方策とともに中長期的な観点からの新空港、滑走路増設等を含めた抜本的な空港能力向上方策等について、幅広い合意形成を図りつつ、国と地域が連携し、総合的な調査を進める必要がある。